

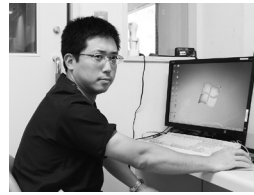
ほのか診察室

HONOKA Consultation Room

シリーズ

第118話

高齢者を対象にした肺炎球菌ワクチンについて



市民病院
院内感染対策委員会
総合診療科部長医師

木村 天永 監修

平成26年10月から、高齢者を対象にした肺炎球菌ワクチンの接種費用の一部を、公費で負担する定期接種「予防接種法」という法律に基づき、自治体（市町村および特別区）が実施する予防接種です。

肺炎球菌とは

主に気道の分泌物に含まれる細菌で、鼻や喉の奥につきやすく、高齢者の3〜5%の鼻や喉に常在しています。

健康で体力がある状態では免疫力が十分あるため、感染症を引き起こすことはあまりありません。しか

し、65歳以上の方は免疫機能が低下し始めていますので、感染症にかかりやすくなっています。また、糖尿病、心疾患、呼吸器疾患などの慢性疾患を持つ方や、病気の治療中などで免疫抑制状態にあり免疫力が低下している方、脾臓を摘出している方、たばこを吸っている方なども感染症にかかりやすいため注意が必要です。肺炎球菌は飛沫感染、気管支炎、肺炎、髄膜炎、中耳炎、敗血症などを発症することがあります。日本の死亡原因を見ると肺炎が第3位となっており、その4分の1から3分の1は肺炎球菌が原因といわれています。

肺炎球菌ワクチンとは

肺炎球菌には90種類以上の血清型があり、定期接種で使用される「23価肺炎球菌ワクチン」は、そのうちの23種類の血清型を予防の対象としたワクチンです。

【平成29年度対象者】

市内に住所を有し、次の①または②に該当する方

	対象者①（生年月日）	対象者②
65歳	昭和27年4月2日生～昭和28年4月1日生	60歳以上65歳未満の方で、心臓、腎臓、呼吸器に著しい障害がある方や免疫不全による免疫機能障害の方
70歳	昭和22年4月2日生～昭和23年4月1日生	
75歳	昭和17年4月2日生～昭和18年4月1日生	
80歳	昭和12年4月2日生～昭和13年4月1日生	
85歳	昭和7年4月2日生～昭和8年4月1日生	
90歳	昭和2年4月2日生～昭和3年4月1日生	
95歳	大正11年4月2日生～大正12年4月1日生	
100歳	大正6年4月2日生～大正7年4月1日生	

※肺炎球菌ワクチンは、接種してから抗体ができるまで約3週間かかります。

【副反応など】

接種した部位が赤くなったり、腫れたり、熱をもったり、痛んだりすることがありますが、通常2〜3日で治ります。そのほかにも熱が出る、だるいなど体調の変化をきたすこともありしますので、変化があれば医療機関へご相談ください。

過去5年以内に23価肺炎球菌ワクチンを接種したことのある方が再度接種を行うと、初回接種よりも副反応の頻度が高く、程度が強くなるとの報告があります。接種を希望される方は5年以上の間隔をあけてください。

肺炎球菌ワクチン接種を希望される方は医療機関へご相談ください。

